

平成 28 年度 化学研究所若手研究者国際短期派遣事業滞在報告書

ナノスピントロニクス分科 田中 健勝

今回、化学研究所若手研究者国際派遣事業の援助を受け、イタリアのペルージャ大学の Giovanni Carlotti 准教授のグループに研究滞在させていただきました。ペルージャはイタリア中部に属するウンブリア州の州都であり、いくつもの時代にまたがる歴史を有している都市です。建物から一步踏み出すと、石畳と坂、そして中世を思わせる美しい建物が広がります。



今回の研究滞在中で日本との違いを感じた部分は、常に居室のドアが開いていることです。これは、居室に気軽に訪れて議論を行うためだそうです。実際、一ヶ月の滞在中だけでも数え切れないほどの研究者が居室を訪れて、議論を行っていました。また、日本では研究室に夜遅くまで残って実験をする人がいますが、こちらではそういう人が一切いませんでした。午前 9 時に研究室に来て 17 時前にはほぼ全員が帰宅する、というスタイルをとっている人がほとんどだったように思います。有限な時間的、人的資源をいかに有効に活用して論文に結びつく成果を出すかを常に考えて行動している彼らを見て、自分の普段の研究の進め方に改善点があることを学びました。

私は普段、磁化ダイナミクスを電気的な測定で観測しています。しかし、今回の訪問では、ブリルアン光散乱を用いた光学的な手法による磁化ダイナミクスの観測をさせていただきました。光学的手法を用いた実験は初めてで、分からないことが多くあった私にスタッフの方々が丁寧に教えてくださり、原理から実験技術まで実にたくさんのことを学ぶことが出来ました。

最後にこのような経験をさせていただいたことに感謝を述べたいと思います。ありがとうございました。

